

高等学校における通級による指導 ～なりたい自分に近づくために～

兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課

内 容

- ◆兵庫県の特別支援教育について
- ◆兵庫県の高等学校における通級による指導
- ◆通級指導担当教員の専門性向上に係る取組
 - ・県教育委員会の取組
 - ・拠点校、巡回校の取組
 - ・協力校(特別支援学校)の取組



～兵庫県の概要～

- ・北は日本海に面し、
南は瀬戸内海から
淡路島を介して太平洋へ
- ・大都市、農山村、離島等
- ・多様な気候と風土

日本の縮図

【5つの地域】

- ・摂津（神戸・阪神）
- ・播磨
- ・但馬
- ・丹波
- ・淡路



【市町立学校】

小学校:734校

中学校:339校

義務教育学校:7校

高等学校:18校

特別支援学校:19校

【県立学校】

中等教育学校:1校

高等学校:147校

特別支援学校:28校

3

兵庫県特別支援教育第三次推進計画

－平成31年度から令和5年度－

兵庫県がめざす特別支援教育 → **共生社会の実現**

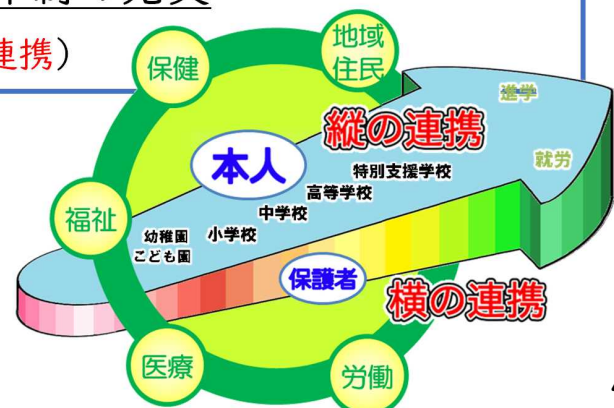
I 連続性のある多様な学びの場における教育の充実

～すべての学校園で取り組みつなぐ特別支援教育～（**縦の連携**）

II 連携による切れ目ない一貫した相談・支援体制の充実

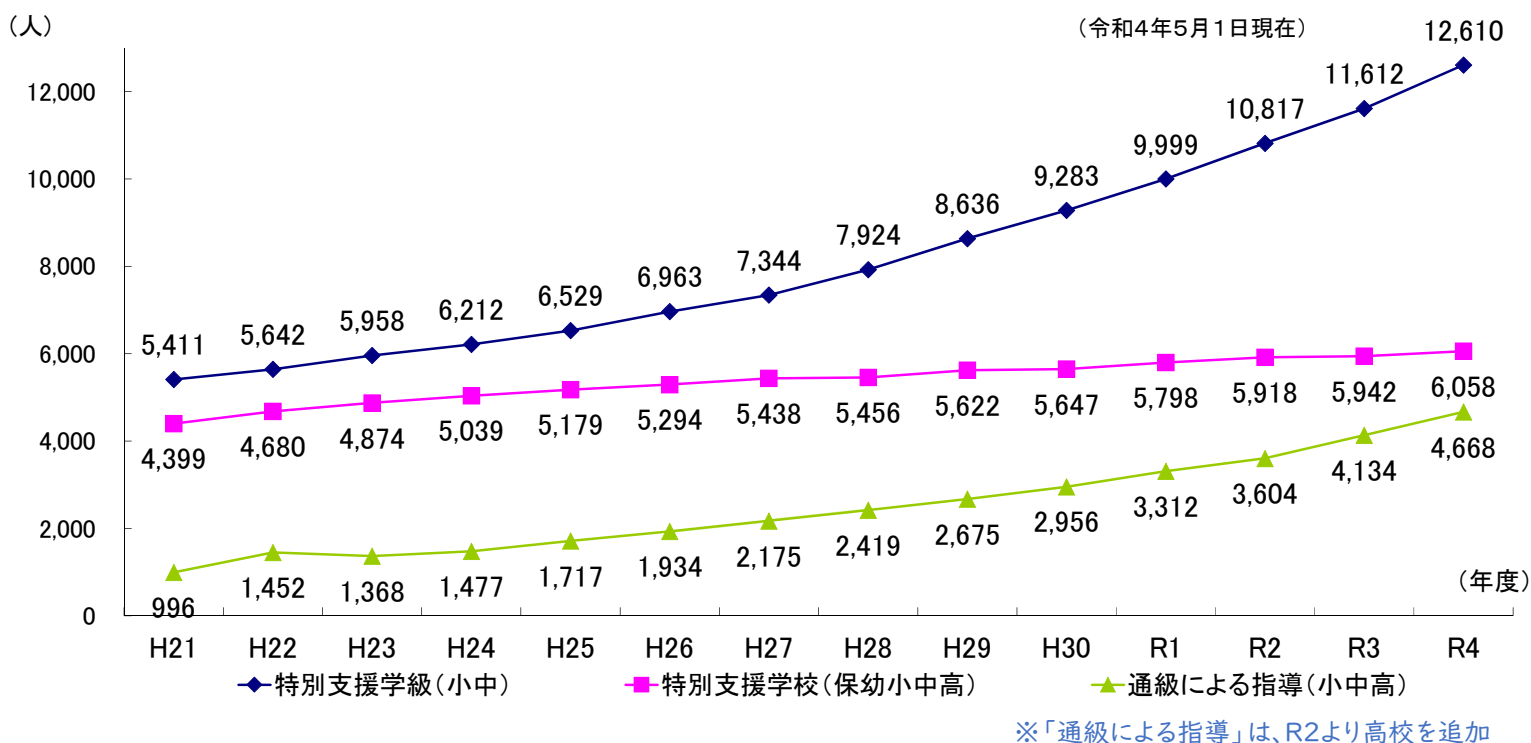
～早期から卒業後へ支えつなぐる特別支援教育～（**横の連携**）

キーワード
「縦横(タテヨコ)連携」



4

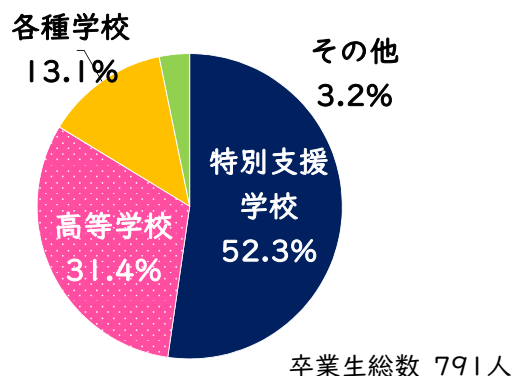
特別支援学校、特別支援学級在籍者数及び 通級による指導を受けている児童生徒数の状況



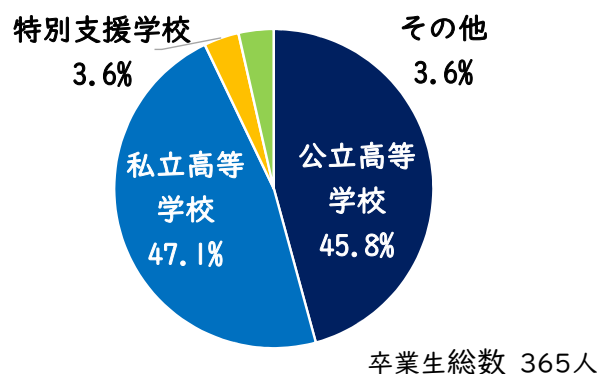
5

高等学校における特別支援教育の必要性

特別支援学級在籍者



通級指導対象者



中学校からの進路状況 (令和3年度)

・中学校で特別支援学級に在籍していた生徒や、通級による指導を受けていた生徒、発達障害等のある特別な支援を必要とする生徒が、高等学校に進学。

6

特別な教育的支援の引継ぎについて

中学校

○引継ぎを行った中学校数

294校 99.0%

引継ぎ対象生徒在籍校 297校

(調査対象校340校：神戸市・県立大附属中含む、芦屋国際中等前期除く)

○引き継いだ生徒数 1,292人

通常の学級在籍 993人 (76.9%)

特別支援学級在籍 299人 (23.1%)

高等学校

○引継ぎを受けた高等学校数

132校 80.0%

調査対象校165校

(市立高・県立大附属高含む、芦屋国際中等後期除く)

○引継ぎを受けた生徒数 693人

令和4年度公立高等学校入学者選抜募集

定員33,160名

(中学校) 昨年度比 4校増、生徒数173人増
(通常の学級在籍生徒数107人増、特別支援学級66人増)

【引継ぎを行わなかった主な理由】

- ・しっかり教育相談ができたので、保護者がシートでの引継ぎの必要が無いと判断された
- ・本人及び保護者からの要望が無かったため 等

【引継ぎを受けた高等学校の声】

- ・引継ぎ内容を全教職員に周知し、各授業等での個に応じた指導を検討することができた
- ・通級を希望する生徒の実態把握に活用している 等

(令和4年度 特別な教育的支援の引継ぎの実施状況調査)

7

兵庫県内の小・中学校等における通級指導教室数

平成5年度～ 通級による指導開始

平成18年度～ LD・ADHD等通級指導教室開始

※通級指導担当教員を学校生活支援教員として配置

平成24年度～ 学校生活支援教員を各市町の

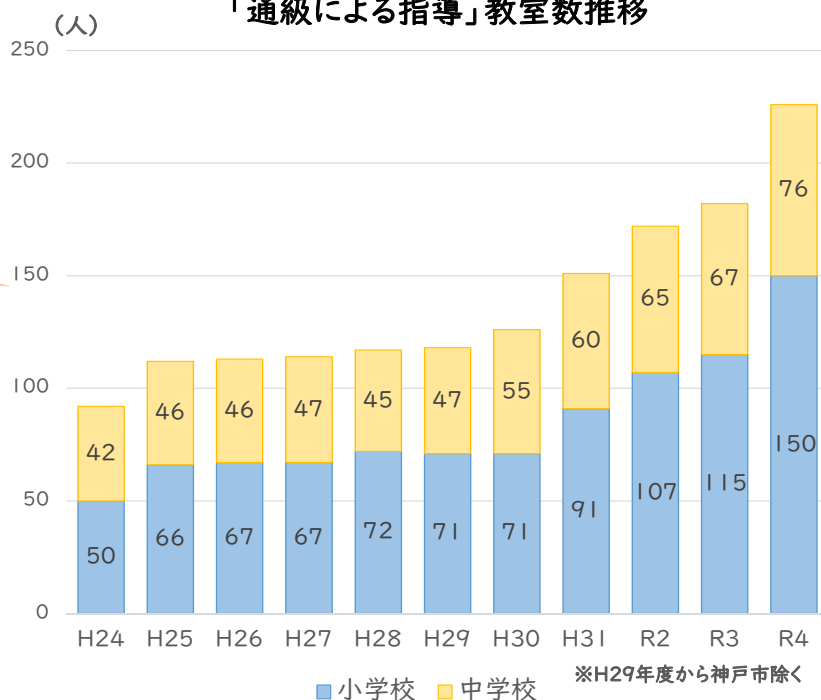
1小学校1教室、1中学校1教室以上に配置

令和4年度 「通級による指導」教室数(神戸市除く)

	小学校	中学校	合計
LD、ADHD等	150 (+35)	76 (+9)	226 (+44)
言語障害	8	0	8
自閉症	11	0	11
難聴	3	0	3
合計	172	76	248

()内は、昨年度比

「通級による指導」教室数推移



■ 小学校 ■ 中学校

8

兵庫県の高等学校における通級による指導

■通級指導を受ける
県内公立小中学校の児童生徒数
(兵庫県教委調べ)

2007 09 11 13 15 17 年

**「通級指導」県立高9校で
発達障害の生徒支援 担当教員を配置**

兵庫県教育委員会では、発達障害などを受ける児童生徒に対し、通級指導を実施する県立高等学校9校に、通級指導担当教員を1人ずつ追加配置する。県教委によると、9校に教員を配置する体制は全国でも最大規模といわれ、「中学校からの支援の体制を整備した上で、生徒の自立を支援し、安心して学ぶ環境を整備する」としている。

対象校は、宝塚市（宝塚市）、三木市（三木市）、三木市（三木市）、三木市（三木市）、三木市（三木市）、三木市（三木市）、三木市（三木市）、三木市（三木市）、三木市（三木市）。

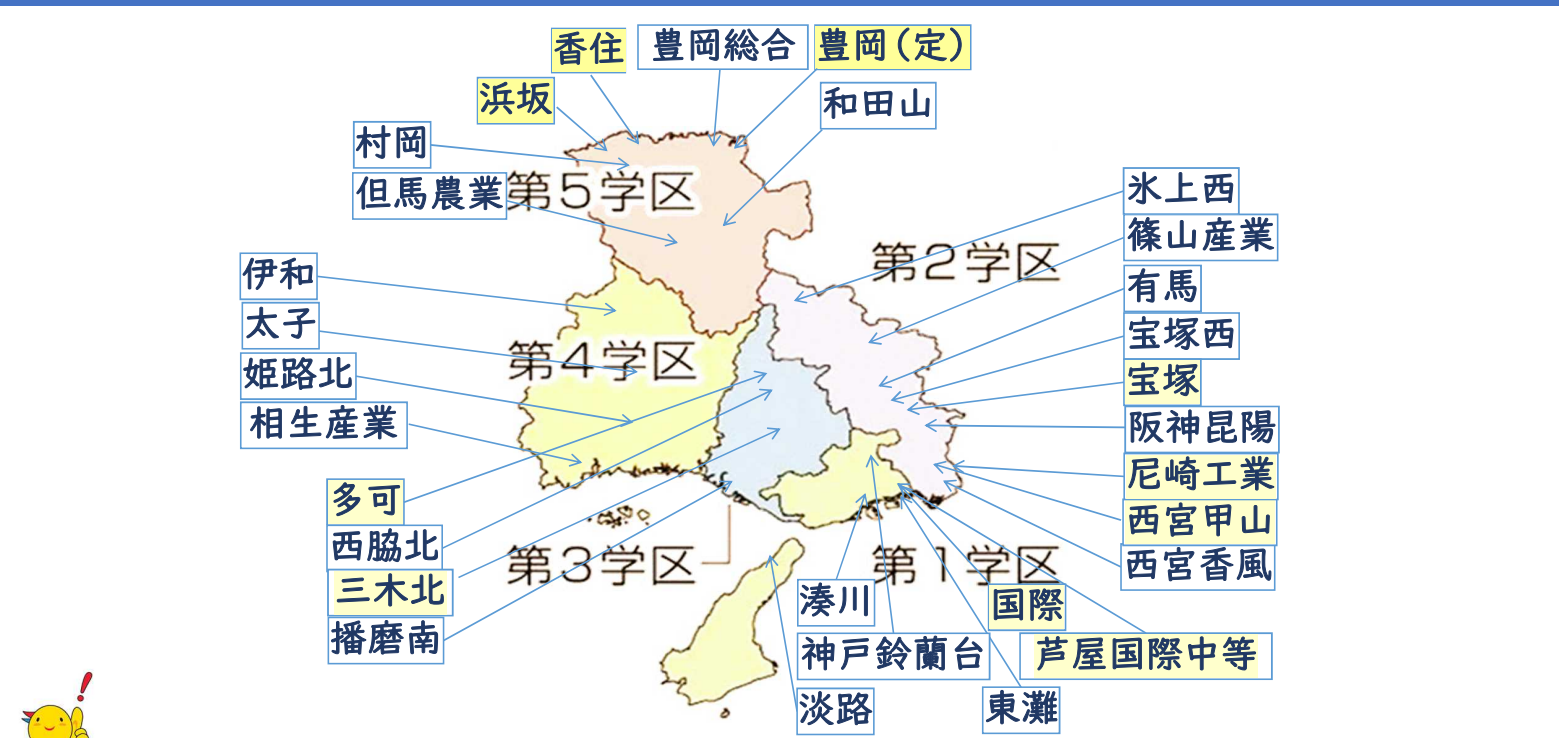
神戸新聞2018.4.6(金)

兵庫県立高等学校の通級による指導実施校数

	H30	R1	R2	R3	R4
自校通級	9校	12校	14校	17校	20校
巡回指導			1校	3校	10校

対象生徒	
令和4年度	137人 (R4.5.1現在)
	160人 (R4.9.27現在)

令和4年度通級による指導実施高等学校 (拠点校20校、巡回校10校)



県教育委員会の取組

- ・通級指導運営協議会の設置（年3回）、通級指導担当者研修会の実施（年3回）
- ・高等学校における通級による指導実践研究協議会の開催、訪問指導
- ・小・中・高等学校・特別支援学校及び関係機関との合同研究会の実施
- ・大学との連携事業（神戸大学、兵庫教育大学、神戸親和女子大学等）
- ・特別支援教育にかかる教員長期派遣研修事業

●兵庫県立高等学校における特別な教育的ニーズへの対応
～高等学校での特別支援教育を進めています～（H31.2）



●高等学校の通級による指導(R2.3)

●通級指導実践事例集

～高等学校における通級による指導～(R3.3)



●高等学校における障害のある生徒等への進路指導ガイド(R3.3)



※各リーフレット等はこちらへ↑

連携による効果的な実践普及啓発リーフレット(R4.3) つながろう！つながろう！一人一人の未来のために



- ① 発達段階に応じた関係機関による支援と成果の例
- ② 支援の引き継ぎ
- ③ 本人及び指導・支援に携わった教員の声
- ④ 関係機関と連携先等



※リーフレットはこちらへ↑

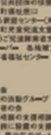
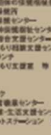
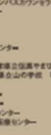
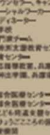
なりたい自分に近づくために様々な支援を受けながらイラストレーターになった

Hさんの場合

縦横連携で促した指導・支援から社会へ



さまざまな関係機関とネットワークを活用して、児童生徒の自立と社会参加を目指します。



高等学校における通級による指導実践研究協議会



13

大学との連携（対象：教員養成課程）

- ◆神戸親和女子大学（R4.6.2）
- ◆神戸大学（R4.6.9、R4.12.2）
- ◆兵庫教育大学（R4.10.19（学校見学）、R5.2.10）

- 1 特別支援教育に関する基本的な考え方、国の動向
- 2 兵庫県の特別支援教育
- 3 高等学校における通級による指導
- 4 高等学校における特別支援教育（学校見学）

・村岡高校、西脇北高校の実践発表（録画）、グループ協議 等



【学生からの感想】

- ・ 支援の理念だけでなく、どのような生徒に対し、どのような支援をし、どのように変化したのかということを知ることができた。
- ・ 生徒の問題行動にはその背景やきっかけがあることを忘れてはいけないと思った。

- ・ 好きなことや自己を認めることを重視するなど、は障害の有無に関わらず、人と関わる際に重要なことだと思った。
- ・ 小学校とは違い、生徒の将来、特に進学や就職を意識した指導を行っていることが印象的で、高等学校までのつながり、他機関との連携も意識して指導を行いたい。

14

特別支援教育にかかる教員長期派遣事業

〈大学・大学院1年間の派遣〉

R2:5名 R3:6名 R4:5名

- ・大阪教育大学
- ・神戸大学大学院
- ・岡山大学
- ・兵庫教育大学大学院
- ・京都教育大学

〈国立特別支援教育総合研究所〉

R2:10名 R3:4名 R4:3名

- ・肢体不自由教育専修プログラム
- ・発達障害・情緒障害教育専修プログラム
- ・知的障害教育専修プログラム

〈研究テーマ等〉

「発達障害の現状と効果的なアプローチ及び合理的配慮の提供について」

「特別支援教育に関する資料タイトル分析」

「高校通級において自尊感情を育む(通級による指導を受けている高校生がCOVID-19感染拡大による休校中に学校や教師に求めていること)」

「愛着障害・強度行動障害・子どもとの関わりについて

「高等学校における障害のある生徒への進路指導」

等

15

兵庫県立特別支援教育センター 令和4(2022)年度 研修講座一覧

研修講座名		研修講座名	
新任特別支援学級 担当教員等研修	弱視学級担当講座	特別支援教育 研修	障害のある子どもと歩む保護者の理解講座
	難聴・言語障害学級担当講座		特別支援学級における自立活動の指導充実講座
	知的障害学級担当講座		基礎的な障害理解と授業実践講座
	肢体不自由学級担当講座		効果的なICT活用講座(基礎)
	病弱学級担当講座		効果的なICT活用講座(実践)①
通級指導教室 担当教員等研修	自閉症・情緒障害学級担当講座		効果的なICT活用講座(実践)②
	小学校における通級指導講座		気になる行動を考えるステップ講座
	中学校における通級指導講座		ポジティブな行動支援講座
リーダー 研修	高等学校における通級指導講座		ユニバーサルデザインの視点を取り入れた国語指導講座
	【小・中学校】 エリアコーディネーター育成講座		特別支援教育の視点を取り入れた学級経営講座
	【高等学校】 次世代コーディネーター育成講座		感覚・運動面の視点を取り入れた指導・支援講座
	【特別支援学校】 次世代コーディネーター育成講座		発達の段階に応じた性の課題に関する指導・支援講座
	【特別支援学校】 自立活動リーダー育成講座		発達障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加に向けた就労支援講座(中・高)
			発達障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加に向けた就労支援講座(幼・小)
		特別支援 学校 年次 研修	選択研修の 動画配信研修
			初任者研修
			教職経験者(2年次)研修
			教職経験者(3年次)研修
			中堅教諭等資質向上研修
			マイプラン研修(自主研修)
			講師派遣研修



兵庫県立特別支援教育センター
〒651-0062
兵庫県神戸市中央区坂口通2-1-1 兵庫県福祉センター3F Tel・Fax 078-222-3604



16

拠点校、巡回校の取組

拠点校の取組

- ・ 特別の教育課程の編成等の研究
- ・ 通級による指導の実施
- ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成
- ・ 校内研修（研究授業含む：年3回）
→ 専門家を招き教職員を対象に実施
- ・ 合同研究会：各学区と淡路地区（年2回）
→ 小・中・高・特別支援学校及び関係機関
- ・ 近隣の高等学校への理解啓発、教育相談

巡回校の取組

- ・ 校内研修（年2回）
→ 専門家を招き教職員を対象に実施

【通級指導担当者時間割の例】

	月	火	水	木	金
0限					
1限	1年体育		生徒B	生徒B	
2限	生徒A	1年体育			生徒C
3限	TT 3年・体育	生徒A		教育相談 委員会	生徒C
4限		特別支援教育 委員会			
5限			TT 2年・体育		1年体育
6限					TT LHR
7限	生徒D	生徒E (巡回)		生徒F (巡回)	総合的な 探究の時間

- ・ 合格者説明会等での説明、中学校からの引継ぎ、本人・保護者面談、学校生活の様子による実態把握を実施
- ・ 特別の教育課程編成に向け、計画・内容を検討（教務部と連携）
- ・ 特別支援教育委員会を中心に全教職員が生徒の困難さや指導・支援目標、特性に応じた指導・支援方法を共有
- ・ オンラインによる授業も実施
- ・ 関係機関との連携

17

協力校（特別支援学校）の取組

協力する特別支援学校の取組

- ・ 拠点校、巡回校への支援
（訪問・リモート等）
→ 個別の教育支援計画、
個別の指導計画作成への助言
→ 自立活動の指導方法、
教材教具についての助言
→ 校内研修の計画
→ 関係機関との連携等への助言
→ 卒業後の進路先への引継ぎ 等

【特別支援学校における連携先の例】

- ・ 障害福祉・生活保護担当（市町）
- ・ 障害福祉担当（手帳の更新）
- ・ こども家庭センター
- ・ 放課後等デイサービス事業所
- ・ 入所施設、グループホーム
- ・ アルバイト先
- ・ 実習、ジョブコーチの活用
- ・ 障害者就業・生活支援センター
- ・ ハローワーク（職業相談会等）
- ・ 医療関係（主治医、投薬） 等

※個別移行支援計画作成や関係機関との連携等、特別支援学校が日常的に行っている支援について情報提供等を行う

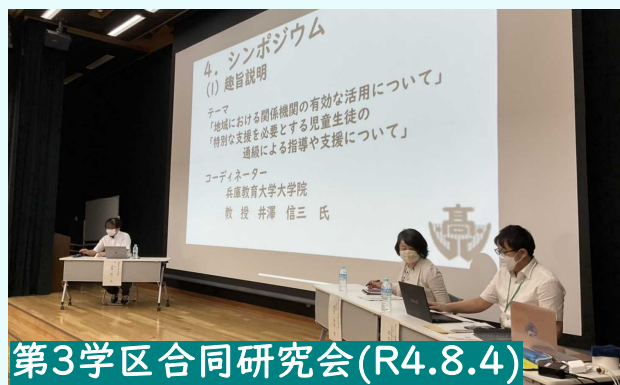
18

合同研究会：各学区と淡路地区（県内6カ所）にて年2回

小・中・高等学校通級指導担当教員、特別支援学校の特別支援教育Co.が情報交換し、通級による指導の充実に関する協議

	学区	第1学区	第1学区淡路地区	第2学区	第3学区	第4学区	第5学区
第1回	テーマ	縦の連携を生かした生徒支援	小中高の連携について(1)	通級指導の実際と縦の連携	特別な支援を必要とする児童生徒の通級による指導や支援	発達段階に応じた通級指導のあり方	小・中・高学習指導要領各教科科目における「障害のある生徒などへの指導」
	実施日	8月26日(金)	8月19日(金)	8月31日(水)	8月4日(木)	8月3日(水)	8月4日(木)
第2回	講師	神戸大学大学院 准教授 赤木 和重	兵庫教育大学大学院 准教授 谷山 優子	兵庫教育大学大学院 教授 岡村 章司	兵庫教育大学大学院 教授 井澤 信三	奈良学園大学 准教授 岡野由美子	兵庫教育大学大学院 准教授 小川 修史
	実践発表	小・中・高通級担当教員	小・中・高通級担当教員	研究授業 高校通級担当教員	シンポジウム 小エリアCo. 高通級担当教員、関係機関	パネルディスカッション 小・中・高通級指導担当教員	実践発表 高校通級指導担当教員
第2回	テーマ	横の連携を生かした生徒支援	小中高の連携について(2)	通級指導の実際と横の連携	自尊感情に配慮した通級による指導のあり方	発達段階に応じた通級指導のあり方	就労先への引継ぎと支援の継続
	実施日	12月7日(水)	11月25日(金)	11月18日(金)	11月30日(水)	12月2日(金)	12月7日(水)
第2回	講師	県立村岡高等学校 元通級指導担当教員 長戸 ゆかり	香川大学教育学部 教授 坂井 聡	兵庫教育大学大学院 教授 岡村 章司	香川大学教育学部 教授 坂井 聡	大谷大学 教授 井上 和久	パネルディスカッション 小・中・高通級担当教員、関係機関
	実践発表	高通級担当教員	小・中・高通級担当教員	研究授業 高校通級担当教員	実践発表 小・中・高通級担当教員	パネルディスカッション 小・中・高通級担当教員	19

合同研究会の様子



- シンポジウム
コーディネーター 兵庫教育大学大学院 教授 井澤 信三 氏
- シンポジスト
 - ・小学校エリアコーディネーター
 - ・ひょうご発達障害者支援センタークローバー
 - ・主任相談支援員
 - ・高等学校通級指導担当教員
- 情報交換、協議 等



- 講義
奈良学園大学 准教授 岡野 由美子 氏
- パネルディスカッション
 - ・小学校通級指導担当教員
 - ・中学校通級指導担当教員
 - ・高等学校通級指導担当教員
- 情報交換、協議 等

高等学校における通級による指導の成果と課題

成 果

令和3年度までの卒業生:93名

- ・発達障害等のある生徒への心理面、情緒面への適切な対応ができた。
- ・校内支援体制づくりを推進できた。
- ・通常の学級における授業の理解促進と生徒指導上の課題解決につながった。

課 題

- ・どの高等学校に進学しても、希望すれば通級による指導が受けられるよう、巡回による指導を実施・拡充する。
- ・高等学校教員への一層の周知と理解促進が必要である。

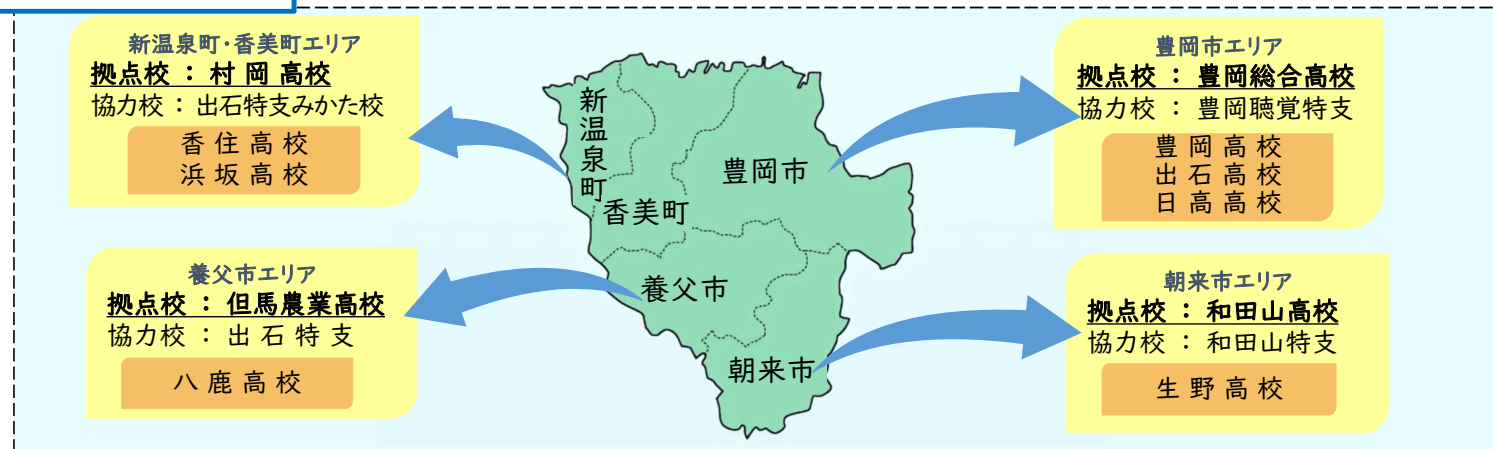
21

但馬モデルの構築

どの高等学校においても希望すれば通級による指導が受けられる体制づくり
※但馬地区を4つのエリアで区切り、4つの拠点校が各エリア内の学校をサポート

合同研究会等

地域における小・中・高等学校間の縦の連携と、関係機関との横の連携の定着をめざす



【拠点校】

- ・巡回校を含む高等学校に教員研修やケース会議等(年2回程度)
- ・要請に応じて本人・保護者への教育相談
- ・合同研究会等の実施
- ・エリア内の小・中学校に、要請に応じて教員研修等

【エリア内の高等学校】

- ・拠点校に教員研修やケース会議等(年2回程度)を依頼
- ・必要に応じて本人・保護者の教育相談を依頼
- ・合同研究会に特別支援教育コーディネーター等が参加

【協力校】

- ・拠点校への専門的な助言

【縦の連携】

- ・小・中学校等、高等学校、特別支援学校

【横の連携】

- ・ひょうご発達障害支援者センター
クローバー 豊岡ランチ
- ・若者サポートステーション豊岡
- ・障害者就業・生活支援センター

22

阪神昆陽の紹介

交流及び共同学習の推進

阪神昆陽

校長

高校・
特別支援
兼任

同一
敷地内に
2校

副校長

施設の共有

特別支援学校（高等部）

高等学校（定時制：1部2部3部の多部制）

教頭 高等学校…3人 特別支援学校…1人

23

ノーマライゼーションを目指して 特別支援学校との交流及び共同学習



授業



部活動



行事での交流

24

交流及び共同学習

特別支援学校の生徒が高校の授業を受講



体育



高校生から
アルバイトの話聞く



美術



対人援助

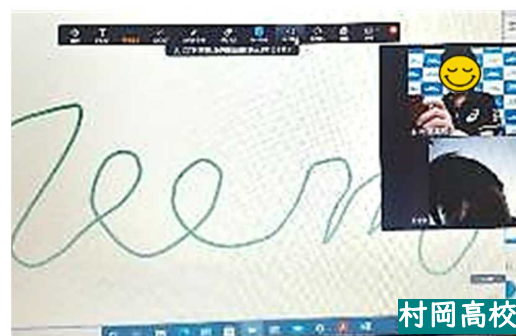
※移動支援従業者資格取得

25

通級による指導 授業の様子



阪神昆陽高校
コミュニケーション
に関する指導



村岡高校
ICTを活用したコミュニケー
ションに関する指導



氷上西高校

タブレット端末を用いた
学習に関する指導



村岡高校

ATMでの預入金等
ライフスキルに関する指導



西宮香風高校

困ったときの相談
スキルに関する指導

26